

平成 29 年 5 月 22 日

岸和田市産業活性化推進委員会 会議録

日 時 平成 29 年 5 月 22 日（月）15:00～17:10
場 所 岸和田市役所新館 4 階 第 1 委員会室・議会会議室
出席者 (委員)
石田（信）委員長 藤田副委員長 石田（茂）委員 伊藤委員 市川委員
植野委員 浦山委員 奥委員 北尾委員 杉本委員 中井委員 永谷委員
永野委員 松下委員
(事務局)
信貴市長（途中退席） 津村部長 池内課長 田中参事（港湾振興担当・企業誘致担当） 滝石商工振興担当主幹 泉本主査 田中主査 山瀬主任
中浜参事（観光振興担当） 朴農林水産振興担当主幹

協議内容

(事務局) 資料 1～3 及び岸和田市産業振興新戦略プラン【改定版】の進行管理について説明
岸和田旧港地区周辺の魅力づくり構想とホテル・旅館誘致条例の制定については産業振興新戦略プラン【改定版】の策定後に出てきたものであり、31 ある施策の中のどこに位置づけるかについて議論の余地がある。一旦この会議の中でご議論いただいとりまとめ、ワーキンググループでご議論いただきます。事務局としては旧港地区周辺の魅力づくり構想については 5-4)「港湾振興事業の推進」の中に位置づけるべきかなと思っています。また、ホテル等の誘致条例については、施策の目的・趣旨から見ると、3-1)「企業立地促進法に基づく基本計画の推進」に位置づけるのが一番近いと考えられる。ただ、限定的な書きぶりをしているので、この点についても合わせてご議論いただければと思います。事務局からは以上です。

(委員長) 今、ご説明いただいた中で、ご質問、ご意見を頂きたい。どなたからでもどうぞ。

(委 員) 追加の 2 つがどの施策に位置づけるべきかということによいですか。

(委員長) そうということです。

(委 員) ホテル旅館の新設の件については、先ほどの 3-1) でもいいかと思いますが、観光の振興とあるので、5-3) の観光振興計画の推進にもつながって

くるのではないかと思います。

(委員長) 今のご意見についていかがでしょう。

(委員) 私の意見としては、新規事業の観点を重要視するのもひとつかなと思います。創業支援のような新しく事業を起こすという観点もひとつかなと。観光の観点を重視すれば観光になるし、新規事業ということもあるし。もうひとつは、市としては助成をするのだから、助成の部分に重きを置くか。何を重要視するのかによって違ってきます。みなさんの意見を聞いてまとめていただければと思います。

(委員) 元々、ホテルの件を発案されたのがどういう経緯があったのか確認したい。ホテルのニーズといえば、観光と、あとは仕事で来た出張なのか、それによって全然違うと思います。観光目的で建てるのであれば、5-3) 観光振興計画の推進に当たると思います。この案がないとなかなかホテル側も出してくれないと思います。こういった観光の案を考えているから、観光用のホテルの案を出してほしいと。一方、新規事業ということであれば、観光以外のところ、出張者の利用などが関わってくるかと思います。新規誘致の企業を考えているのでニーズが増えますよ、という話しを持っていかないとホテル側も納得しないと思います。どちらなのでしょう。観光客相手なのかビジネス目的なのか。

(委員長) 事務局どうぞ

(事務局) 今、ご指摘いただいている部分ですが、まず、ホテル誘致につきましては、産業政策課としては、ホテルが来ることによって、様々な市の事業に影響してくるという視点があると思っています。企業立地の面や観光振興の面、あと、ホテルができることによってスポーツ大会ができて宿泊施設ができるなどいろんな要素が絡んできます。ただ、産業政策課としては、工業地域のところに企業誘致、阪南2区もそうですが、新たな企業を誘致しようということに取り組んでおります。そういう視点から、100室以上のホテルの新規事業者に来ていただきたい。そういった企業を誘致しようということで、産業政策課にて企業立地の関係について、固定資産税の次年度の助成を考えたという経緯がございます。ただ、それだけではなしに、お話いただいた観光の面、ホテルに宿泊した方が、ホテルに泊まって終わりではなしに、泊まっていたいて、岸和田近辺を回遊していただく。それを地域の起爆剤とするために誘致したい、という思いがございます。当初事務局からご説明させていただいた基本方針の企業立地の促進という部分と、観光振興計画の推進、岸和田産業の魅力発信の両方に当たってくるものと考えてございます。

(委 員) 参考になるかどうかわかりませんが、私が理事長をしております岸和田駅前通商店街の駅周辺に、名前は伏せますが、愛知県に本社があるビジネスホテルを誘致したいということで、担当者の方と実際お会いさせていただきました。なかなかご縁がなくてその案は、今のところお休み状態です。ただ、その担当者の方も岸和田という立地条件をあきらめずに、また何かご縁がありましたらというふうにお答えいただいております。なぜそこにホテルが必要ですかと聞きますと、そこは、ビジネスホテルなので、ビジネスマンの需要がまだまだあると見込んでのことで、岸和田にそういう物件を探しているとお返事をいただいております。余談ですけども。実際私がお会いして、お話をさせていただいたことを今ご説明させていただきました。それと、ホテルは新規ですか、増築は一切だめですか。

(事務局) 基本的に今現在市内にある最高の部屋数のホテルでも 60 室ほどです。市内には 3 つのホテルがございます。やはり市内で岸和田市が誘致したいと考えたホテルにつきましては、100 室以上、もしくは旅館でいうと 30 室以上、一部屋 4 人部屋として 120 人以上が泊まれるような旅館。そういった規模のホテル・旅館を起爆剤としてまちづくりをしていきたいということです。一定規模以上の施設。新規も当然ですが、増築でもそれだけの規模を増築していただければ対象となるものと考えています。たとえば、現在 60 室あって 40 室ほどを増築して 100 室を超えた場合は、全体的には 100 室ですが、これまでの既存施設の室数をプラスして 100 室ということではなくて、100 室以上をプラスで増築して建設してくださいという思いを込めて条例を制定させていただきました。

(委 員) 増築もありですか。

(事務局) あります。ただ、横の敷地を確保して既存の施設にプラスして増築してもらう。条例の適用をしようと思えば、ホテルであれば 100 室以上、旅館であれば 30 室以上の増築をしてもらう必要がある。

(委 員) 増築部分が 100 室以上。

(事務局) そうですね。意味合いとして、たとえば 60 室ほどのホテルがあって 30 室ほどが増えても、その地域の新たな活性化として、起爆剤として、それだけの効果が図れないのではないかということです。固定資産税の助成をする。市民の貴重な税金をそこにあてさせていただく限りは、それくらいの規模で起爆剤となるようなホテルを誘致したいという思いで、そういう規模にしております。

(委員) この議論ばかりで申し訳ないです。100室以上のホテルを誘致したら起爆剤になるというところが私ほうまくつながらない。その根拠。具体的にはここのホテルが来ればというものはありますか。

(事務局) 岸和田市の庁内でも100室なのか150室なのか200室なのかということで議論しました。近隣市の和泉市や泉佐野市でもホテル誘致が進んでおりますが、200室以上からしか助成が出ないとすると、130～150室程度のホテルを考えている事業者が岸和田市に来ていただけない可能性がある。200室以上のホテルに来ていただきたいが、そこまで欲張って、100室を少し超えるようなホテルが近隣市に取られてしまうのを避けたいという思いがありました。100室以上のホテルが来たからといって、そこがガラッと変わってというわけではありませんが、一定程度の宿泊者がいるということは、人の動きが出てくるといことで、活性化につながるのではないかとということです。

(委員) 今の話を聞いた中では、3-1)がいいのか5-3)がいいのかは私もよくわかりません。

(委員) 企業立地法との絡みはどうします。それと、もうひとつの方ですが、観光振興の委託している事業の中に入ってしまうのでしんどいのでは。どこへ入れてもいいのですが、具体的に進行している話もある。それを含めて、他市との絡みで前へ動かざるをえない状況にきています。進行管理をどこにするかは、技術的な問題です。それよりも、本質的にどういう具合にして前に進めるか。進めやすいところ。たぶん予算措置の問題だと思います。市の方から提案してもらったらいいいのでは。

(事務局) ありがとうございます。お話いただいたように、現状では企業立地促進法に基づいてこれまで企業誘致を進めておりますので、ホテル事業者につきましても、その観点で進めていけたらと思います。おっしゃっていただいたように、仮にここに位置づけたとしても、観光なり農林水産なりいろんなところと連携しながらホテル誘致を進めていくこととなります。ご指摘いただいたように、技術的なところを含め、ここに位置付けられたとしても、様々な施策・業務と関連させたいうえで、岸和田市全体として進めていきたいと思っています。

(委員) この委員会の進め方として、今の意見を聞いてまとめるのが基本ではないかなと思います。私は基本的に、委員がおっしゃったように市に委ねてもいいと思っています。そんな大きな問題ではないと思います。

(委員長) 他の委員の方のご意見も積極的に伺いたいと思います。ご発言されていない方はどうぞ。

(委員) 私は日頃、商工労働部というところにいます。産業を活性化するのにどうするかという資料を作っている部署です。どちらかというと分析屋です。分析データを作るところから何が言えるか。それが必ずしも当たっているわけではないので、すべて信じる必要はありませんが、この分厚い資料(資料3)に関して言うと、書き換わっているところがある。そういうところは一度データの更新がいるのではないかと思います。大きな話でいうと、産業を活性化するのに内発型でいくのか、外貨を稼ぎにいく、いわゆる輸出型でいくのか、それとも域外から人を寄せて来るのか。大きな柱がある。そういったところのどこに注目するのか。もしくは、すべていくのか。そういう柱がいると思います。たとえば、我々も外部からインバウンドのお客さんがどれくらい来ているかを数字で測ろうとすれば、JR阪和線の東岸和田駅の乗降客数はどれくらいか。南海岸和田駅はどうか。その推移はどうなっているか。取りにくいですが、外国人の数がどれくらい変わっているか。個別の施設でいうと、だんじり会館ではどれだけ変化しているか。そういった細かい積み上げというのが、もし、産業活性化推進委員会で外部から来る人を重点的にするという方向にするのであれば、その落とし込みという作業が必要。柱が必要。私は専門的には工業をしているので、工業の方でいうと外貨を稼ぐためにはどうするかということで、以前は素材型工業を推進しようということでした。川上と川下と川中があれば、どちらかというと川中産業が多いので、そういったところの企業を支援しようとしていた。大きく分けて、私は内発型。これは商業も散髪屋などサービス業もそうです。外から来てもらう人、観光を中心にする。あとは工業が多いですが、外貨を稼ぐためにどうするか。そういった柱を作ると、それに沿った細かいデータをいただいて分析したうえで、個別のワーキンググループで議論できる。そういった方向で考えるといいのでは。

(委員) この中にはいろんな施策があると思う。商業もある。第一次産業もある。加工業もある。ちょっとずつしたら、予算の額も少ないし、一点に絞って、今年はこのをやっという方が前に進みやすいのでは。ホテル誘致の話が出ていますが、関空にインバウンドで訪日外国人が多くなっている。大阪にIRができる。他の市町村でもみんな観光に力を入れている。関空と大阪の通過点ですよね、岸和田市は。このままでは出遅れるし、人口も減っていく。観光客を呼び込む。せつかく岸和田に来たけども泊まる場所もなければいけない。施策の中で、ホテルや旅館を集中して造っというようにした方がいいと思います。あれもこれもとっているのとまとまらない。一点に集中する方がいいと思います。

(委員) 今、議論しているホテルや旅館の関係の客室の問題もある。この問題は、施策のどこの部門に入るといっても、早くこのことの手を打たなければ、近隣の市町村から見たら沈没するような岸和田市になっているはず。それと、もうひとつ考えてほしいのは費用です。企業誘致するにもこういったことを考えないと企業も来ないです。すでに遅い。市がここに入れてたいというところでいいのでは。私の考え方としては。だから、早くこのことをアピールしていくと同時に、これだけではなく、企業誘致の関係を近隣の南の貝塚市、北の和泉市にしても、これと同じような施策を考えている。どこへ入れるという議論ではなく、早くここに入れてやっていくということで、していただいたらいいのでは。

(委員長) 観光の方で行くのか、企業誘致の方で行くのか、お任せにするのか。大きく3つのご意見がありました。みなさんのご判断で、最終的にこの委員会としての結論をまとめたいと思います。もう一度確認しますが、いかがでしょうか。みなさんさえよければ挙手だと思いますが、いかがですか。

(各委員) 異議なし。

(委員長) (挙手による採択) 我々の全体的な意見としては市の方にお任せすることにしたと思います。ホテルの方はそれでいきます。

(委員長) もうひとつの方です。岸和田旧港地区周辺の魅力づくり構想。今と同じように進めていきたいと思います。まず、市の方から、5-4)に入れたらどうかというご提案ですが。

(委員) 産業と観光のところに入れたいといけないのでは。

(委員) 5-4)と5-3)にかかってくるのかなと思います。いま、みなとマルシェを毎週しているのですが、漁業者がやっているので規模が小さい。昨日くらいまで神戸まつりをやっていたりして、市がすごく力を入れている。企業や漁業者だけでなく、やはり市も中に入っていない。予算も規模も違うとは思いますが、市がすごく力を入れている気がしました。神戸は昔から貿易で栄えたところではあります。岸和田は海も山もありますが。漁連の会長にリーダーシップをとってもらって、すごく力を入れてもらっている。将来的には、商業施設も海の駅もしたいなという話がありまして、これからどんどん考えていかないといけない。5-4)と5-3)にかかってくるのかなと思います。

(委員) どなたかがおっしゃっていましたが、岸和田には目玉がない。まず、この構想がありきで、今までやってきた既存の施策をこれの下につけてもよい。このプランの既定の体系の一部に組み込むのではなくて、岸和田の活性化のためにはこれだと。この構想を目玉にした中で商店街もこれに入れていくなど。私の意見はそういうことです。

(委員) 私も委員と同じで、今の施策の中には、ちょっとあてはまらないと思います。それよりももっと大きな枠組みであるべきだと思います。先ほど説明された中で、府との協議も必要になってくるということがあったので、本当に大きな構想のひとつになると思います。ひとつ気にしているのが、5-2)の商店街活性化事業の個票の中でベイサイドモールができてから商店街が衰退したような話が載っていました。だから、これができることで商店街に悪影響が出る可能性もあるのかなと。そこで5の施策の中に位置づけると調整が難しくなってくるのかなと思いました。

(委員) 5-2)とおっしゃいましたか。先ほどおっしゃったカンカンの影響で衰退したという文言はどこにありますか。

(委員) 私が事前に目を通した資料です。この冊子『岸和田市産業振興新戦略プラン【改定版】(2015~2020)平成27年度~平成32年度』(岸和田市、平成27年3月)の13ページの下の方にあります。読み上げますと、「市内の商店数は平成3年以降減少が続いていますが、従業員数は緩やかな増加傾向にあります。これは平成11年に開業した「岸和田カンカンベイサイドモール」など、大型商業施設の開業が要因であると考えられます。」なので、店の数がカンカンのせいで減っているというふうに書かれている。

(委員) 私が今聞かせてもらった限りでは、そういう感じにはとっていないです。減っているけども、要は雇用は増えているという意味合いを指摘しているのではないかなと思います。

(委員長) おそらく、従業員の数が緩やかに増えているという記述では。

(委員) わかりました。

(委員長) 他にご意見ございますか。

(委員) 委員も言っていたように、目玉にするような形とする方が行く方が前に進むとは思いますが。結局は予算化の問題です。どこかに予算をつけるという作業を手伝わないと、目玉を決められない。目玉にするのはいいと思うが、予算

措置をどうするのかという問題だと思います。

(事務局) ありがとうございます。今おっしゃっていただいたことを私も考えていたのですが、旧港地区周辺の魅力づくり構想についても、先ほどのホテルと同じく、この分野だけに収まらず、非常に広範囲にわたる事案になると思います。いろんなことを巻き込んで、起爆剤として、大きな事業になるところです。平成29年度はすでに始まっていますが、市としては岸和田市全体の事業を一覧にしている経営計画があります。その中にこの旧港地区周辺の魅力づくり構想も記述されています。その中でどの事業にあてはまっているかといいますと、今は港湾振興事業として一定進めているところでございます。ただ、港湾振興事業だからといって、商店街や観光との連携はどうするのか、また、この地域だけのことなのか、他の周辺地域はどうかかなど、様々な観点があります。岸和田市としては、旧港地区と地蔵浜地区の一部を、起点にして、再活性化することで周辺地域を巻き込んで、本市全域の活性化に導いていきたいと考えています。様々な施策分野とつながりますが、まずは、どこに位置づけるかという点、旧港の活性化がございましたので、港湾振興事業から進めさせてもらう。そうして様々なところに波及させていただくように思っています。

(委員長) 今まで出たご意見ですが、5-3)、5-4)あたりに位置づけるというご意見。また、目玉としてこれよりももっと上位に位置付けるというご意見。それと、市の方からご説明があったように、どこかにはめこんで、全体的に波及させていくというもの。大きく3つと捉えてよろしいですか。他にありませんか。

(委員) 旧港のこの構想をどこに位置づけするかによって、予算にも関係するので、うまくもっていききたいとのことですね。市の予算の状況はわかりませんが、この資料の中身を見ますと、いろんな小さい事業にそれぞれ予算がついています。対象が小さくて効果が小さいものがたくさんあるように思います。逆に、事業活性化のためにたとえば年間1,000万円つける。でも、他の小さいものは我慢してくださいであるとか。そんなダイナミックなことを考えるべきではないか。これは活性化委員会の進め方そのものの見直しにもつながると思います。具体的には、5-2)を見てもらったら、ここの取組1の中で商店街等活性化事業で26年、27年、28年で100万円ほどですが、補助金をつけている。小さな効果を狙うのもひとつの方法だが、同じところに予算をつけるとしても、一点に的を絞って、これを活性化して人を集める。これありきで市全体を活性化するというような形を志向すべきではないか。それが私の意見です。

(委員) 私の意見はちょっと違いまして、たしかに、旧港の問題は波及効果がある。創業の関係であるとか商業の関係であるとか。ただ、どちらかというゾーン、エリアになります。創業の話はどちらかという機能の話。これは全体の意見を集約して、決まったらその方向でいくということは大事だと思えますが、私の意見としたら、機能とエリアは慎重に分けて考えるべきだと思います。というのも、私が認識している範囲では、旧港というのは岸和田市単独で進められる計画エリアではなく、大阪府、もしくは協議会が保有している土地並びに開発地になります。今の状況、その辺ははっきりわかりませんが、いろんな資本が入っている関係でいうと、起爆剤としてはおもしろいですが、私の見立てで言うと、大阪府の中でも岸和田市は海と山と産業が密接にあり、かつ南で堺を越える魅力があると思っています。そういう意味でいうと、エリアとしてここを使っていくのはいいと思いますが、機能の議論としては他の関係の方がいいのかなと思います。

(副委員長) 今の意見との関わりです。考え方としては、どうこうできる部分について、保有者の裁量が一定あるわけです。そっちは尊重しなければいけないので、結果的に、市はここに対してバックアップをすることが最大の仕事になってくると思われます。できるのかどうかはわかりませんが、結果として、基本方針5にすべてかかってくる話です。基本方針5には1から7までしかないが、新たに5-8を立てられるかどうか。5-8にここまで話しに出てきたような目玉作りができるかどうか。それが一番収まりがいいのではないかと私は思います。

(委員) 委員の意見の基本になることです。市がこのゾーンの中で独自で活用できるゾーンはどこですか。他の部分ではできないんですね。確かにこのゾーンの中で、市が活用できるゾーンかどうか教えてもらえますか。

(事務局) 今、お示ししているゾーニングについて、市が所有している部分をご説明します。文化交流ゾーンの中で、浪切ホール土地、建物は岸和田市の所有です。それと、商業施設コーナンの底地部分については、一部が岸和田市の所有で、お貸しして賃借料をいただいています。スポーツドーム跡地は大阪府の所有地、カンカンが民間事業者が持っている土地です。マンションも当然民間事業者が持って開発されています。ですので、全体通して言いますと、浪切ホールとコーナンの土地、一部緑地部分もありますが、それくらいになります。あと、地蔵浜に行きますと、大阪府の港湾局が管理している土地があり、民間事業者にお貸ししたり、売却したりしています。

(委員) 市としてできることは限定的なのですね。

- (事務局) 岸和田市がすべての土地を所有しているわけではないので、まちづくりを市の裁量ですべて誘導していくことは難しい。しかし、民間の土地だからということで、民間が好き勝手できると無秩序な街づくりになる。そこは岸和田市の総合計画があり、都市計画マスタープランがあり、産業振興新戦略プランがあり、その下に魅力づくり構想がある。段階を踏んだ街づくりの方向性がある。この区域については、街づくりの方向としてはこういうゾーニングをして、事業者様を誘導しようということです。この構想の方向性は、都市計画マスタープランをはじめとする上位計画や、他の街づくり計画と違う方向にはなっていません。
- (委員) ということは、市が独自で活用できるのは一部の土地だけ。逆に言うと、民間の持っているところに、行政がどうのこうの言えるわけではない。後残っているのは府の資産ですが、それを府に代わって市が活用させてもらうことは可能か。
- (委員) 市が積極的に働きかけない限り、府は動かない。だから、岸和田市が一番問題だったのは、積極的にするということがなかったので動かなかった。今度は積極的にやるという話で、これが出てきたのだと思います。港湾でも、他の事業者の方も含めて、彼らが一生懸命すると言い出したから、ちょっとずつ動くようになった。
- (委員) ということは、まず市がするのは、府の管理地域を市の方で、委託でうまく運用させてほしいということが第一歩では。
- (委員) 国や府においていろんな計画があって、市の方が運用しようとしても、国や府からそんなことは知らないと言われたら終わりです。
- (委員) そういうことが前提条件で、これをどういうふうを実現するかということですね。これをメインなんてとてもできないです。
- (委員) その意見は正しいと思います。ただし、進め方はテクニカルな部分があるので、そこはご理解いただきながら進めないといけないということだと思います。
- (委員長) 他にご意見ございましたら。よろしいですか。そしたら、出たご意見としては、番号でいうと5-3)、あるいは5-4) に入れ込むということと、もうひとつは副委員長がおっしゃっていました新しく5-8) を立てて起爆剤、目玉的に議論するという。委員が初めおっしゃったことはどうですか。

- (委員) 私は目玉の部分は取り下げます。
- (委員長) ご意見としてはみなさん共通認識としてご理解いただけていると思います。その2つということで、今回もみなさん挙手でもよろしいですか。(挙手による採決) 数でいきますと5－8)になります。
- (委員) ちょっと待ってください。5－8)は実際問題としてできるのか。できるかできないかを市として言ってください。
- (事務局) 産業振興新戦略プランは当初策定してから、時代背景などいろんなことがあって、新たなことが出てきたりしていると思います。新たに施策を作っていくということになりますと、仮に何年間かの間に計画が半分以上ガラッと変わったときに、計画の当初の内容が説明時と変わってくることになります。新たな事業としては当然いろいろ出てくるとは思います。大きな施策としては、岸和田市の産業全体を見たときに、こういう方向性で施策は考えるというのがありました。その方針の中で収まるのであれば、その中に入れさせていただいて、その方針の中で割り振りさせていただいたらありがたいと思っています。もし、付け加えるとなると、改定になってしまいます。役所的な話で申し訳ありませんが。
- (委員) 私は目玉にしやすい位置づけの仕方を市の方で選んでもらうという意見です。
- (委員) さっきも言ったように、あれもこれもって言うと、1個ずつの規模が小さくなってしまいます。それならしない方がましだとなったりする。1点か2点に集中して、今年はこちらに集中しようとか、そういう方がいいと思う。1個ずつが小さくなってしまうと、前に進みにくいし、予算も少ないと大きなこともできないし。なんかそういう感じがします。
- (委員長) 重点的にということですね。他はよろしいですか。それと繰り返しますが、5－3)か5－4)に入れるということがひとつ。委員から提案があった、目玉として活用しやすいところに入れるように、市の方に考えていただく。それで間違いないでしょうか。
- (委員) 委員がおっしゃっていることは私もよくわかります。難しいのが、重点化と予算の額をイコールにすると、非常に混乱すると私は思います。行政は、金額をいくら取ったかが行政の勝ちパターンになります。これを言い出すと、予算の額と重点施策が釣り合っていない。予算はある程度散らばすというのか。たとえば、やはり我々大阪府商工労働部としたら、商業ばかりだと工業から言われます。これは議会で決めるということですので。そういう意味でいう

と、どこに重点化をするかという、最後は意思決定機関がありきです。産業活性化推進委員がそれをどこまで言えるかは私も理解していませんが、かなり言えるのなら、施策をもっと分析する必要があるし、ちょっと粗い議論かなと思います。ですから、そこまで踏み込んでいないなら、委員のおっしゃった重点化に関して、イメージの重点化は理解できますが、予算配当の重点化はすべきでないと思います。

(委員長) もう一度、みなさんにお聞きしてよろしいですか。重点化という意見がひとつ。もうひとつは5-4)に入れるということ。それと市の方で起爆剤的に活用できるようなところに入れてもらう。そしたら、意見を集約したいと思います。いずれかに手を挙げていただきたいと思います。順番は逆になりますが、市が提示された5-4)に入れたらいいと思う方。7人。それから、基本方針5の中のどこかに市の方にご判断いただく、お任せする。そのやり方がいいという方。挙手をお願いします。4人ですね。それで全員ですか。

(委員) 個別に独立した形でやっていく、5-8)は消えていますか？

(委員長) 5-8)もありました。そしたら市が提示された5-4)に入れていただくということでもよろしいですか。この委員会の意見としてはそのようにしたいと思います。ありがとうございました。予定の時間をかなりオーバーしており、申し訳ないです。この件の議論はここまでということでもよろしいですか。そしたら、その他ですけれども、ご意見ございましたら。おっしゃってください。

(委員) 冒頭の話で、市からこの2つの部分をどうしたらいいかというお願い事項に対して、私はみなさんの意見を聞けたと思っています。活性化のための基本的なことで、今の形の進め方でいいんでしょうか、こういう形の中身でいいんでしょうか、という元の見直しの部分が残ったと思うんです。それに対して、どう考えて、市とどんなふうに関わるのか。進行の部分については、あらかじめ冒頭に説明があったから。進行の状況は委員がとやかく言うのではなくて、ワーキンググループがいるので、そこに委ねるが基本だと思います。だから市も明確にしてほしいんです。

(委員長) 今日はその件を議論する時間が全く取れませんでした。ワーキンググループでいろいろご意見が出て十分に審議されていると伺っております。今日は議論できませんでしたが、特に意見として出したいということがあれば、今日は時間がないので、事務局の方に申し込んで、それを私が聞き出して、次回でも、あるいは場合によっては何か別の方法でみなさんに伺いたいと思います。よろしいでしょうか。

(事務局) 事務局から1点だけお願いします。次回第2回の産業活性化推進委員会の開催を8月または9月に予定しています。お配りしている資料4に日程調整用の紙をお付けしております。ご都合の悪い日を記入していただき、5月の末までにFAXまたは手渡しでご提出ください。

(委員長) それでは以上を持ちまして、岸和田市産業活性化推進委員会を終了します。ありがとうございました。

(以 上)